



雪のピリポ・カイザリアからガリラヤ湖に下ると、雪はすっかり上がって、そこは別天地の美しい春の野でした。菜の花、からし菜の花など黄色い花が咲いていました。陽も射して、風も優しく穏やかに吹き寄せる春風でした。まず、祝福の丘に 1930 年に建てられたフランシスコ会の「山上の垂訓教会」へ行きました。八つの祝福に因んで、八角形の礼拝堂がありました。礼拝堂の扉の上に祝福を伝えるイエス様の絵が飾られていました。この礼拝堂の回廊の南に、ガリラヤ湖を一望できる場所がありました。信徒の友編集長、吉祥寺教会の吉岡牧師が讃美歌のプリントを渡して下さり



山上の垂訓教会礼拝堂入口の絵

私たち一行はガリラヤ湖を見つめながら、讃美歌21-57「ガリラヤの風かおる丘で」と 280「馬槽のなかに」を歌いました。日本人の作詞、作曲による讃美歌を歌えることはなんという幸いでしょう。ここで祈りました。イエス様に繋がっていることを感謝し、喜びが湧き上がりました。

ここはなだらかな斜面になっています。ガイドはこの絵のような形でイエス様は話されたのではなく、ガリラヤ湖を背にして下方に立ち、上方の斜面に座る民衆に向かって話されただろう、そうすれば声がよく聞

こえると言われました。ちょうど、ローマの円形劇場での様子と同じ形になります。



岩と床のモザイク

次に、「5つのパンと2匹の魚」の奇跡を記念する教会を見学しました。紀元 350 年頃のユダヤ人のキリスト教会の聖壇の中心に置かれた岩があり、床のモザイクは 480 年頃のビザンチン時代の教会のものです。これが、20 世紀に発掘されて、ベネディクト会の修道院の礼拝堂となって、再建され、残されています。

また、イエス様が最初に伝道された地、カペナウムのシナゴーク遺跡に行きました。ペトロの故郷でもあります。イエス様が安息日に行かれた古代シナゴークの上に、倒壊後も次々とシナゴークが建てられたとのこと。聖なる場所と見なすからです。石柱や装飾に古代の様子が浮き彫りされていて貴重な資料となっています。特に建物の角、柱に当たる部分の「隅の石」に注目しました。



会堂柱の隅の石

それゆえ、主な神はこう言われる。「わたしは一つの石をシオンに据える。これは試みを経た石、堅く据えられた礎の、貴い隅の石だ。信ずる者は慌てることはない。」(イザヤ28:16) とイザヤ書では象徴的に用いられています。さらに詩編118編の言葉をイエス様が、『家を建てる者の捨てた石、これが隅の親石となった。これは、主がなさったことで、わたしたちの目には不思議に見える。』(マタ21:42)と引用され、死と復活を暗示されました。エルサレムの議会で、ペトロが大胆に信仰告白したことも思い起こさせられます。「この方(イエス)こそ、『あなたがた家を建てる者に捨てられたが、隅の親石となった石』です。」(使徒4:11)また、ペトロの家とされる遺跡もシナゴークのすぐ側にありました。

その後ペトロの召命教会の側の波打ち際で、ガリラヤ湖の水にさわり、ランチではペトロ・フィッシュの唐揚げ一匹を食べて満足し、船に乗り込みました。ペトロのような、元気な陽気な船頭たちは、サービス満点で、網を打って見せます。船の上でイスラエル民謡のCDをかけて、ダンスが始まりました。皆をリードし、輪になって踊ったり、歌ったり、本当に楽しいひと時でした。ガリラヤ湖にまた虹がかかり、ヨルダン山並みを遥かに眺めながら、かもめの舞うガリラヤ湖を堪能しました。



祝福の丘にかかる虹